

自然科学研究科環境・エネルギー工学専攻 博士後期課程 アドミッションポリシー

求める学生像

環境・エネルギー工学専攻は、環境・エネルギー工学分野において、専門的で深い知識を有し、自立して独創的な研究を行い、環境・エネルギー工学分野を開拓・深化させる能力、並びに、これらの分野に関係する高度に専門的な業務に従事するために必要な卓越した能力を身につけ、かつ、高度な倫理観を備え、国際社会で活躍できる人材を養成するため、下記の能力・資質・意欲を持つ学生を求めます。

- (1) 大学院修士課程または相当する研究機関において、環境・エネルギー工学分野における専門的な深い知識を身につけている。
- (2) 環境・エネルギー工学分野における研究能力を得るために、基礎から応用までの幅広く高度な専門的知識や技術を、主体性をもって意欲的に身につけることができる。
- (3) 環境・エネルギー工学分野において、高度で優れた研究・開発ができる能力と高い倫理観を備え、高度な専門性が求められる職業を担い、国際社会で活躍する意欲をもっている。

入試区分	評価方針
一般入試	大学院修士の学位または専門職学院を有する者、あるいは取得見込みの者を対象として、環境・エネルギー工学に関する学力、専門的学力、研究能力、外国語の能力をしっかりと身につけ、高度な研究活動を通して博士論文の作成へと発展していけるかどうかを、出願書類と筆記試験の成績及び口頭試問によって評価します。
社会人入試	大学院修士の学位または専門職学院を有し、一定以上の社会経験を積んだ者を対象として、環境・エネルギー工学専攻における専門的学力と研究・業務実績を有し、単位取得と研究活動を通して博士論文の作成へと発展していけるかどうかを、出願書類と口頭試問によって評価します。
外国人留学生入試	日本の大学院修士課程に相当する教育・研究機関を修了した者を対象として、環境・エネルギー工学に関する専門的学力、研究能力、外国語の能力をしっかりと身につけ、高度な研究活動を通して博士論文の作成へと発展していけるかどうかを、出願書類と口頭試問によって評価します。